

文中に見えた柳玘訓は宋の晁公武の郡齋讀書志や明の葉盛の文淵閣書目にも著録せられてゐる書籍である。そして柳玘は唐の僖宗時代の人で、彼が蜀に在つて目睹した所を記したのであるから、當時蜀にあつては、字書・小學などは率ね雕板印行せられてゐたことは確實な事實であるといはねばならぬ。(6) かく唐末に於ては、佛典のみならず、比較的需要の多い字書・小學の類まで、印行せられてゐたのであるから、その中葉に於ても幾分印書が行はれて居つたと推定しても、敢て不當ではないであらうし、その創始は唐初の頃までも溯り得るものとの推測も、あながち漠然たる臆説としてのみ却け去ることは出来ないであらう。

- (1) 後漢書靈帝紀 同儒林傳
- (2) 後魏書江式傳 晉書衛恒傳
- (3) 島田翰氏著「雕版淵源考」(古文舊書考所收)
- (4) 市村瓚次郎博士「寫本時代と板本時代とに於ける支那書籍の存亡聚散」(史學雜誌第十三編第一・三號)
- (5) 上海商務印書館刊行の中國雕版源流考によるに、近頃江陵の楊某の藏書中に、開元雜報の殘簡が七葉發見されたが、これは唐代の雕本で、一葉十三行、每行十五字、文字

の大きさは錢の如く、邊線界欄があつて、中縫なく、唐代寫本の款式の如く、蝴蝶装であるといふ。若しこれが事實であるならば、現存支那印刷物の最古のものであらうが、未だ信すべき専門家の考説もないから遽に信することは出来ぬ。なほベリオ氏の蒐集品中に唐刻と稱する尊勝陀羅尼があり、大谷伯の蒐集品中にも唐刻と稱する大般若經の斷片があるが、その年代は明かでない。

- (6) 市村瓚次郎博士「寫本時代と板本時代とに於ける支那書籍の存亡聚散」(史學雜誌第十三編第一・三號)

二 印刷術は唐からの傳來か

支那の印刷法は唐初の頃に創始せられ、その中葉には可なり行はれてゐたであらう。そして唐末には佛書のみならず、字書・小學の類も印行せられたことは前述の如くである。この前提の下に、日唐の交通、文化の關係を考へるに、我が奈良朝の印刷法は唐から傳來したものであらうといふ推測は、最も自然な妥當な考へ方であると思ふ。

日唐交通上最も重要なものは、遣唐使の派遣である。遣唐使は舒明天皇の二年(六三〇)犬上御田鍬を遣はされたのを始めとし、無垢淨光陀羅尼の開版された稱徳